

実践報告資料

研究テーマ 『 人権を大切にし、互いの良さや違いを認める、豊かな心をもった児童の育成
～ 将来の夢や目標をもち、自立して自らの個性と可能性を伸ばす教育 ～ 』

研究内容 【 (1)、(2)、(3)、(4) 】

学校名 (篠山市立西紀南小学校)

ア 人権教育としてのねらい ・自分との違いを認め、支え合う心をはぐくむ人権教育の授業の推進 ・地域と連携した豊かな心を育む人権教育の実践				
イ 研究の概要 ○外国人児童に対する受け入れの充実を図る。 (外国人児童受け入れについてのマニュアルの活用、児童一人一人に応じた学習支援、心のケアの充実、篠山国際理解センターとの連携) ○学校全体として、児童の人権感覚と問題解決能力を育むために人権教育資料を積極的に活用して人権教育の充実を図り、自他を大切にし、真に人を思いやる心や助け合う心を育成する。				
領域	教科 (生活科)	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	1年担任 外部講師 (篠山国際理解センター)	6年担任	全教員	3年担任 外部講師 (篠山国際理解センター)
実施日	1月16日	10月18日	年間	12月14日
取組名	あそび名人 大作戦 しりたいなブラジルの遊び	人権の日の取り組み	人権朝会	地球っ子プログラム (NPO法人篠山国際理解センター作成プログラム)
目 標	昔の遊びや外国の遊びを知り、遊びを楽しみながら、地域の高齢者や友だち、幼稚園児や外国の方々など人とのかかわりを広げ、自分のできることや友だちの良さに気づく。	今日の社会の中にも存在する差別という事実に対して、自分自身はどのように生きていくのかを考える。	正しい人権感覚と豊かな感性を育て、自他を大切に、思いやりの心や挑戦する心をもった児童を育成する。	ブラジルの文化にふれ、日本との違いに気づき、互いの文化を認め合うことができるようにする。
資料名	(5) 季節の変化と生活 (8) 生活や出来事の流れ (わたしとせいかつ上 日本文教出版)	部落史に学ぶ (外川 正明氏著作、 『これでわかった! 部落の歴史』 上杉聰)	各教師の自作教材	「ブラジルの文化にふれよう」
指導内容 や指導方法の工夫等	「伝統文化」と「国際理解」は、ともに子どもたち自身の人格を多様で寛容な人格に育てる表裏一体のものであり、必要不可欠な学習内容である。ブラジルの方の話から、生活の様子を知り、遊びに触れることを通して、外国に対する興味や関心を高めさせる。そこから自国の文化以外も認めることができる土壌作りをしていく。	10月18日を人権の日と定め、同和教育という視点に重点を置いて、学習を進め、学校全体で人権教育を深めた。全学年が人権同和参観を実施し授業を行った。外国人児童が内容を理解し、授業に参加できるよう、事前に訳などの支援を行った。また、今年度より保護者参加型の授業を実施し、児童と保護者が感想を交流するなど保護者への啓発を図った。	月一回の朝会で担当が視点を明確にした講話を行った。視点が重ならないよう、各教員の講話のテーマを年度当初に決め、年間の予定を立てた。視覚支援を必要とする児童も在籍するため、ふり返りができるように朝会後は掲示板に内容を掲示した。また、担当が内容について明記した人権通信や学校ホームページを通して、保護者への周知を図った。	ブラジルの生活風景や食事、遊びをスライドなどで学習した。じゃんけんなどの遊びは実際に体験し、日本との違いを感じることができるようにした。この学習を通して外国の文化にふれ、違いや共通点を知り、国が違っても相手を理解し、思いやりをもって学校生活を送ることができるようになった。

